Y14b　バリアフリー天文絵本プロジェクト：点図製作

○嶺重慎 (京都大)、高橋淳 (水海道一高)、坂井治（ロボット）、長岡英司 (筑波技術大)、成松一郎 (読書工房)、広瀬浩二郎 (民博)、南谷和範 (大学入試セ)、八木陽平 (JAXA)、辰巳公子、高橋貴子、高山久美子、藤原晴美ほかプロジェクトチーム

近年、天体画像が多くとられてインターネットでも簡単にアクセスでき、天文教育にも多くの天体画像が取り入れられている。しかし、視覚障害者はそれを見ることができないため、何らかの工夫が必要となる。そこで、われわれは、視覚障害者が天文学を学ぶためのマルチモーダル版天文学習教材の製作プロジェクトを進めている (2010 年春季年会、2011 年春季年会でも報告)。これは同じ内容の本を、活字版、点字・点図版、音声版、電子ブックの異なる 4 形式で提供するもので、読書の方法やスキルが多様化している視覚障害者はもちろんのこと、ディスレクシア (読み書きに特別の困難をおぼえる障害) の学習にも有効であろうと期待される。

プロジェクトでは中高生版と天文絵本の製作を進めた。中高生版では、太陽、月、太陽系の惑星を中心に、より身近な題材を選び、イトカワや系外惑星など、最新の話題にも触れた。京大全学経費により既に完成し、全国の盲学校等での出前授業・セミナーに用いている。特に点図 (点字の点で作成した触る図) が好評で、点図により初めて、全盲の生徒が、月や木星にある模様や数々の星雲の形に直接触れて、学びを進めることが可能になった。小学生向けの天文絵本は、ホシオくんという小学生のキャラクターが天文台に行って、望遠鏡をのぞきながら惑星や恒星について学ぶ内容となっている。三菱財団の助成を受け、現在、製作の最終段階にある。

講演ではプロジェクトの概要、出前授業のようすと成果をのべ、ポスターでは、点図の実際例を、カラー画像と並べて掲示する。学会参加の皆さんも、ぜひ (見るだけでなく) 触って実感してほしい。